

1. 科目名(単位数)	道徳の指導法(初等)(2単位)	3. 科目番号	EDTE3307
2. 授業担当教員	曾根原 和明		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	<p>本科目は、教職課程における「教育の基礎的理解に関する科目」で学ぶ教育観や発達理解、指導方法の基礎を前提として展開する科目である。特に、「教育学概論」「教育心理学」「教育方法論(ICT 活用含む)」等で扱う理論的枠組みは、本科目における指導内容や授業設計の理解を支える基盤となる。本教科は、小学校教諭の養成課程において必修科目として位置づけられている。教職を志す学生は、他の教職専門科目と関連づけながら履修することが望ましい。なお、教育職員免許状を取得しない場合は選択科目として履修することができる。</p>		
7. 講義概要	<p>学校は、子ども達の豊かな人格形成をしていく場である。その中核を担う道徳教育では、人間として、また社会の一員として主体的に生きるための基礎となる資質や能力である、豊かな道徳性の育成を図ることを目標としている。特に新学習指導要領では特別の教科「道徳」となり、道徳教育の必要性はより高まっている。本科目では、小学校学習指導要領を中心に道徳教育のあり方について学び、道徳教育の目標や内容について理解を深める。また道徳教育の歴史的変遷を学び、現在の道徳教育の内容、子どもの道徳性の発達特性に即した指導計画について検討する。そして道徳教育の授業理論や発達段階に応じた授業実践について学習し、道徳の学習指導案を作成できる能力を養う。その中で教科化に伴い、「読む道徳」から「考える道徳」へ、「教える道徳」から「議論する道徳」への授業の転換が求められており、新たな指導法についても学習していく。これらの学習内容を踏まえた上で、現在の道徳教育が抱える課題について考察していく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 道徳教育の歴史的経緯を踏まえ、現在の道徳教育の目標や内容について理解し、説明することができる。 2. 子どもの道徳性の発達理論について正しく理解し、発達段階に応じた道徳教育を行う指導力を養う。 3. 道徳教育の全体計画、年間指導計画を理解し、学習指導案を作成する能力を身に付ける。 4. 道徳教育の授業理論を理解し、特別の教科「道徳」で求められている実践的な指導力を身に付ける。 5. 道徳教育の課題と展望について学び、道徳教育に対する自らの考えを深め、説明することができる。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>本科目では、理論理解と実践的構想力の育成を目的として、事前課題、事後課題、中間レポート、学習指導案作成を課す。</p> <p>(1) 事前課題 各回の授業内容に関連する自身の体験を振り返り、簡潔にまとめて提出する。体験を手がかりとして授業内容を主体的に理解することを目的とする。</p> <p>(2) 事後課題 学習目標に照らした自己評価を実施する。授業内容の基礎的理解を確認することを目的とする。</p> <p>(3) 中間レポート それまでの学習内容を統合し、自らの考えを形成するため、第6回後および第13回後にレポート課題を課す(各800字以内)。</p> <p>(4) 学習指導案作成 第14回および第15回を通して、小学校道徳科の学習指導案を作成する。道徳の本質理解、道徳的価値の捉え方、発達段階、教材分析、授業方法、評価の視点を総合し、テキスト pp.78-81 の指導案例を参照して完成させる。</p> <p>事前学習および事後課題の提出は、いずれも次回授業日の前々日までとする。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>汐見稔幸 監修・奈須正裕 監修・上地完治 編著『道徳教育の理論と実践』ミネルヴァ書房、2020年。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』あかつき教育図書、2018年。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の歴史的経緯を踏まえ、学習指導要領における道徳教育の目標や内容について理解し、現代における道徳教育の意義について自らの考えを深めることができたか。 ・子どもの道徳性の発達理論について正しく理解し、発達段階に応じた道徳教育の指導法について理解できたか。 ・様々な道徳教育の授業方法について学び、学習指導案を立案し、道徳の授業を実践することのできる力を身につけることができたか。 <p>○評定の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点(積極的参加度・授業態度・発表・発言等) 20% ・課題(中間レポート・小テスト・ワークシート等) 40% ・期末評価(レポート・試験等) 40% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、道徳教育の理論を理解するだけでなく、それを小学校の授業として具体化できる力を養うことを目指します。道徳科は、価値を教え込む教科ではなく、子どもが多面的・多角的に考え、根拠をもって議論しながらよりよい生き方を探究する学びの場です。その意味で、本科目は理論と実践を往還させながら学ぶ科目です。特に、次の姿勢を大切にしてください。</p> <p>第一に、自らの体験を問い直す姿勢です。各回の事前課題では、これまでの授業体験や学級体験を振り返っていただきます。自分の体験を理論的に捉え直すことが、実践的理解への第一歩となります。</p> <p>第二に、対話を通して思考を深める姿勢です。道徳には唯一の正解があるわけではありません。他者の意見に触れ、自らの考えを言葉にし、根拠をもって議論する中でこそ理解は深まります。対話への積極的な参加は、成績評価にも反映されます。</p> <p>第三に、自律的に授業を構想する姿勢です。本科目の最終目標は、学習指導案を作成できるようになることです。単に知識を覚えるのではなく、「自分ならどのような授業をつくるか」という視点を常にもちながら学んでください。</p>		

	道徳教育は、子どもだけでなく、教師自身の在り方も問う営みです。本科目を通して、自らの道徳観を問い直し、将来の授業像を具体的に描けるようになることを期待しています。	
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。	
14. 授業展開及び授業内容		
講義日程	授業内容	学習課題
第1回	テキスト「序章 道徳科の授業を学ぶの場」 ガイダンス 教科化された道徳科が目指す授業の姿を理解する。道徳の授業は、価値を教え込む場ではなく、多面的・多角的に考え、根拠をもって対話する学びの場であることを確認する。また、本科目全体の見通しを共有する。	事前学習 体験の振り返り これまで受けた道徳授業の中で、「よかった」と感じた授業、または違和感を覚えた授業を一つ思い出し、その理由を簡潔に書いてきてください。
		事後学習 学習目標に照らした自己評価
第2回	テキスト「第13章 道徳とは何か」 法と道徳の違い、「正しい」と「よい」の違いを整理し、道徳が一つの答えに収束しない論争的な性格をもつことを理解する。道徳を議論することの意義を考える。	事前学習 体験の振り返り これまでの生活の中で、「正しいけれど納得できなかったこと」や「よいと思ったが迷ったこと」を思い出してきてください。
		事後学習 学習目標に照らした自己評価
第3回	テキスト「第14章 道徳的価値について」 道徳的価値の多様性と、子どもがもつ価値の前提理解について学ぶ。価値を一方向的に教えるのではなく、対話を通して成熟を支える授業の在り方を考える。	事前学習 体験の振り返り 自分が大切にしている価値観が他者と異なると感じた体験を振り返ってきてください。
		事後学習 学習目標に照らした自己評価
第4回	テキスト「第2章 学習指導要領における道徳教育と道徳科の想定」 学習指導要領に示された道徳教育の全体像と、道徳科の目標・内容を理解する。「考え、議論する道徳」を具体化するために、教師がどのように授業を構想するかを考える。	事前学習 体験の振り返り 学校で「考えさせられた授業」を思い出し、その授業のどこが印象に残ったかを書いてきてください。
		事後学習 学習目標に照らした自己評価
第5回	テキスト「第3章 子どもの道徳性の発達」 道徳性の発達過程とその理論を学ぶ。幼児期から児童期にかけての発達の特徴を理解し、発達段階に応じた道徳授業の在り方を考える。	事前学習 体験の振り返り 自分が小学生だった頃、考え方や感じ方が変わった出来事を思い出してきてください。
		事後学習 学習目標に照らした自己評価
第6回	テキスト「第1章 わが国の道徳教育の歴史」 修身科から特別の教科道徳に至るまでの歴史的経緯を概観する。戦前・戦後の変遷を通して、現代の道徳教育の意義と課題を考える。	事前学習 体験の振り返り 自分の受けた道徳授業の中で、「教え込まれている」と感じた体験があれば思い出してきてください。
		事後学習 ① 学習目標に照らした自己評価 ② 中間レポート①(800字以内) 第1回から第6回までの学びを踏まえ、道徳科が道徳的価値の押し付けにならないために必要な授業上の工夫について述べなさい。また、将来どのように生かしたいかを論じなさい。
第7回	テキスト「第4章 道徳学習指導案の作成例(1)」 ※第9回から13回の学修内容の全体像を把握する。 小学校における学習指導案の基本構造を理解する。ねらい、内容、方法、評価の関係を整理し、授業づくりの基本的な考え方を学ぶ。	事前学習 体験の振り返り これまでに受けた授業の中で、「授業の流れが分かりやすい」と感じた授業を思い出してきてください。
		事後学習 学習目標に照らした自己評価
第8回	テキスト「第5章 道徳学習指導案の作成例(2)」 ※第9回から13回の学修内容の全体像を把握する。 児童の実態把握から教材分析、発問構成、授業評価までの流れを具体的に学ぶ。あわせて、教材研究・授業方法・評価・学級経営へと展開していく今後の学習の全体像を確認する。	事前学習 体験の振り返り 印象に残っている道徳教材の一つを思い出し、その理由を書いてきてください。
		事後学習 学習目標に照らした自己評価
第9回	テキスト「第7章 道徳科の教材分析、教材研究」 教材分析の視点と方法を学ぶ。教材をどのように読み取り、授業のねらいと結び付けるかを考え、指導案作成につながる教材研究の基礎を身に付ける。	事前学習 体験の振り返り 同じ教材でも、教師によって扱い方が違うと感じた体験があれば思い出してきてください。
		事後学習 学習目標に照らした自己評価
第10回	テキスト「第8章 読み物資料の役割」 読み物資料がもつ教育的意義を理解する。物語の解釈の多様性を踏まえ、「考え、議論する道徳」における資料活用の在り方を考える。	事前学習 体験の振り返り 物語を読んで考え方が変わった体験を思い出してきてください。
		事後学習 学習目標に照らした自己評価
第11回	テキスト「第9章 役割演技の意義と活用法」	事前学習 体験の振り返り 話し合い活動で、「話しやすかった」「話しに

	役割演技の目的と活用方法を学ぶ。どの場面で、どのように取り入れると価値理解が深まるかを考え、心理的安全面への配慮も含めて理解する。		くかった」と感じた体験を思い出してきてください。
		事後学習	学習目標に照らした自己評価
第12回	テキスト「第10章 道徳授業の評価」 道徳科における評価の考え方を整理する。子どもの人格を評価するのではなく、授業の成果を評価するという視点から、指導と評価の一体化を理解する。	事前学習	体験の振り返り 学校での評価について、納得できた体験や疑問に感じた体験を思い出してきてください。
		事後学習	学習目標に照らした自己評価
第13回	テキスト「第11章 道徳授業と学級経営」「第12章 学校の教育活動全体を通じた道徳教育の展開」 主体的・対話的な道徳授業を支える学級経営の在り方を学ぶ。また、道徳教育を学校全体でどのように推進するかを理解し、道徳科を教育活動全体の中に位置付けて考える。	事前学習	体験の振り返り 「安心して発言できた学級」または「発言しにくかった学級」の体験を振り返ってきてください。
		事後学習	① 学習目標に照らした自己評価 ② 中間レポート②(800字以内) 第7回から第13回までの学びを踏まえ、教材分析・授業方法・評価・学級経営の観点から、「考え、議論する」道徳授業を成立させるための要点をまとめなさい。また、指導案作成に向けて自分が特に重視したい点を論じなさい。
第14回	指導案作成① これまで学んできた道徳の本質理解、道徳的価値の捉え方、学習指導要領の内容、発達段階の特性、教材分析の方法を総合し、小学校道徳科の学習指導案の作成に着手する。テキスト pp.78-81の指導案例を参照しながら、ねらいの明確化、児童の実態の想定、扱う教材の分析、中心発問の設定を行い、指導案の骨子を作成する。価値を一方的に示す授業になっていないかを点検しつつ、多面的・多角的に考えさせる構想を立てる。	事前学習	事前学習 指導案作成にあたり、次の①～③を簡潔にまとめてきてください。 ① 扱いたい学年 ② 取り上げたい内容項目(例:「友情、信頼」、「規則の尊重」など) ③ その内容項目に関わる教材案
		事後学習	指導案の作成
第15回	指導案作成② 第14回で作成した指導案の骨子をもとに、導入・展開・終末の流れを具体化し、発問や活動内容、評価の方法までを整理する。引き続きテキスト pp.78-81の指導案例を参照し、ねらい・内容・方法・評価の整合性を確認しながら修正を加える。相互に意見を共有し、子どもが主体的に考え、議論できる授業となっているかを検討することで、より実践的な指導案へと高める。	事前学習	指導案の作成
		事後学習	指導案の作成
期末試験			